

第6回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会防災・環境部会議事録

- ◆ 開催日時 平成 26 年 9 月 29 日（月） 18：00 ～ 19：30
- ◆ 開催場所 登別市役所 2 階 第 1 委員会室
- ◆ 出席部会員
部会長 江口 武利
副部会長 川島 芳治
部会員 関 修
鹿原 徳子
橋場 太（市庁内検討委員会 副部会長）
【総務部総務G総括主幹】
石垣 英雄（市庁内検討委員会 部会員）
【総務部総務G防災主幹】
- ◆ 欠席部会員 部会員 和泉 薫
久保田 博史
遠藤 潤
- ◆ 事務局 沼田総務部企画調整G総括主幹
大越総務部企画調整G主査
- ◆ 議題 「第 2 章自然とともに暮らすまち」に関する考え方について

◎部会長

今回も区切りの良いところまで、できる限り前に進めたいと思いますので、皆さんよろしくお願ひします。

◎事務局

初めに、前回の部会でお話のありました、J R 鷺別駅前の自転車の放置と旧鷺別漁港の不法投棄について、庁内で確認してまいりましたので報告します。

まず、J R 鷺別駅前の自転車の放置について、現地を管理している北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部登別出張所を中心に、放置自転車の対策会議が設けられました。会議には、登別市・室蘭市・室蘭警察署・J R 北海道が参加しています。

その中で、放置自転車の整理・撤去を行うことを決定し、9月16日に放置自転車の警告書の貼り付けを実施しています。10月には、警告書を貼ってもなお放置されたままになっている自転車を撤去する運びになっています。

次に、旧鷺別漁港の不法投棄について、クリンクルセンターに確認してまいりました。毎年、連合町内会の皆さんを中心に展開されている『クリーン作戦』に合わ

せて、地元町内会の皆さんのご協力をいただきながら、不法投棄のごみの回収を行っており、市も回収車を出したり、啓発看板を設置したりしています。

本件は、旧漁港を管理する北海道にも積極的に関わっていただきながら対応してまいりたいと考えており、併せて、北海道には引き続き適切な管理を要望していきたいとのことです。以上が確認の結果です。

◎部会長

J R 鷲別駅前を見に行ったら、自転車が 150 台ほどありました。半分は放置自転車のように見えました。ロープを張って、重ねて置いてある自転車もありました。

駐輪を有料にして、町内会などで駐輪場を管理してその費用に充てるなど、いずれにしても無料はよくないのかも知れませんね。

◎副部会長

先日、会議の後に旧鷲別漁港のところを見たら、誰かが車で来て、またごみを捨てていったようです。クリンクルセンターに電話し、不法投棄の状況写真を撮って、北海道に伝えるようお願いしました。北海道が動いてくれないとどうしようもないのですが、困っています。

◎部会長

放置自転車の件は進展があって本当に良かったですね。北海道が撤去する放置自転車の保管場所も確保したと聞きました。駐輪場所の管理をどうするかを決めないといけませんね。

◎部会員

いろいろな場面で受益者負担の考えを広めていかないといけませんね。

◎副部会長

電車で来て、駅から学校まで自転車に乗る学生がいますが、中には卒業のときに自転車を放置していく人もいるように聞きました。

◎部会長

J R 鷲別駅では、以前は特急列車の利用者向けに駅の駐車を無料で利用させていましたが、今は有料にしています。無料にすると、利用者ではない人が停めてしまったので有料にしたそうです。J R 幌別駅の駐輪場の自転車はしっかり整っていますね。

◎事務局

今日は、先に防災の分野からお話を進めたいと思います。資料の第3期基本計画体系図（案）をご覧ください。

第3節『安全に安心して暮らせるまちづくり』ですが、施策『I 総合防災体制の整備』の下に、施策の基本的な方向『1 総合防災対策の推進』があります。その下に主要な施策として『① 防災計画の推進』、『② 防災訓練の実施』、『③ ハザードマップの活用』、『④ 防災思想の普及啓発強化』となっています。

『① 防災計画の推進』について、登別市防災会議を設置しています。これは市役所だけではなく、関係機関や登別市連合町内会が入って会議体を構成しています。そこで防災計画をつくっています。市役所だけでつくっているわけではありません。

防災計画には、職員の非常参集やこのような災害が発生したらこう対応しましょうなどということが書かれています。

実際には、臨機応変に対応していますが、おおまかな方向性をしっかり定め、適宜見直していきましょうとしています。

庁内の部会では、どのような話になっていますか。防災計画、防災訓練、ハザードマップ、防災思想の普及など、基本的なことは引き続き盛り込まれていますか。

◎市庁内検討委員会副部長

庁内の部会では、この部分の体系図を見直す議論を行いました。もちろん、基本的なことは盛り込まれています。国民保護の関係がここではなく、第3節の最後の方に出てきます。

国民保護は、外国からの武力攻撃やテロなどから市民の安全を確保するための計画です。

◎事務局

Jアラートというのをご存じですか。「ある国がミサイルを発射しました。危険ですよ」と市民に一斉に知らせたり、テロが起きたら速やかに対応したりなど、それを国が自治体に住民の保護計画を定めなさいというものですが、このようなときは逃げるしかありません。

◎部会員

Jアラートは、どのような仕組みなのですか。

◎事務局

国からミサイルが何時に発射されたと入力すれば、自動で放送されるような仕組みもあります。

◎部会長

国や都道府県が中心になって対応に当たるような規模の話ですね。市町村が動いても、できることは相当限られますね。

◎市庁内検討委員会副部会長

大きな部分で国民の生命を守るということがあるので、ここに入れさせてもらっています。

◎部会長

私は、登別市防災会議のメンバーに入っていたこともありました。そのときは、警察と消防が入っていなかったような気がします。

◎事務局

警察も消防も入っています。消防団も入っています。会議の構成は、市のホームページでもご覧いただけます。

◎部会員

会議はどのくらい開催されているのですか。

◎市庁内検討委員会副部会長

少なくとも年1回は開催しています。

◎副部会長

今は、いろいろな災害が発生していますね。防災計画はさまざまな場面を想定していると思いますが、市民が身近に感じる場所では、地震や津波、大雨、土砂崩れなどですし、噴火も近隣には樽前山や有珠山があります。

◎事務局

ハザードマップでは、どうなっていますか。

◎部会員

津波の最大予測水位が栄町で10.2メートルですね。ハザードマップでは約9

メートルと記載されています。

◎事務局

2種類の情報があって、沿岸の最大水位と陸から10メートル離れたところの推移を北海道で発表しています。低めの数値は、沖合水深10メートル地点の数値ですね。最大水位ですから、沿岸の方が10.2メートルですね。

◎部会員

私の住む町内会の皆さんには、標高40メートルのところまでは行かなくていいから、少なくとも20メートルのところまでは避難するよう言っています。

津波のせり上がりがあっても、倍の標高があれば大丈夫と思っています。

◎部会長

高野台に上がっていく道の途中から進入禁止になっていますね。道路も崩れています。

◎事務局

まずは助かることが大事です。避難する公共施設を高台ごとにつくることもできません。

◎副部会長

私の町内会は避難先を見直しました。若草町方面だけではなく、町内会に合った避難場所を選定しました。高台は、天候によっては避難のときに滑って危ないと思います。

◎事務局

そうですね。その前に、もしも登別で大きな地震があったら、崖も崩れているかも知れません。

◎部会長

大きく見直しして周知徹底しないといけませんね。若草町の上の望洋付近は家が建っていて、裏が崖になっています。笹藪や雑木林もあります。草刈りしないと、高台に上がりません。新生地区は約7,000世帯ありますから、収容しきれないのでは。

◎事務局

まずは、ひしめき合っても助かって、命からがらでも逃げるのが大切です。

◎副部会長

来月 26 日、市の防災担当や警察に協力いただき、避難訓練を実施します。

◎事務局

平成 24 年度に津波避難計画の全市的なものをつくりました。地区連合町内会と一緒に、実際に逃げる人はどこに逃げるのか、避難経路も定めた計画です。初めて行った幌別鉄南地区以降、他の地区も順次行っています。鷺別地区も海沿いですね。

◎副部会長

昨年、1 回実施していますが、もう 1 回改めて見直してみようということでも実施します。室蘭市寄りの鷺別町 2 丁目付近の住民は、室蘭市高砂町に避難することも考えています。市外への避難は、事前に行政同士で話し合ってもらい必要がありますね。

◎部会長

鷺別地区の方は、若草町方面へ逃げるよりは、標高がある鷺別岬に逃げるのも方法のひとつでは。

◎事務局

沿岸に住んでいる人はいいのですが、その他の人は海に向かって避難することになります。津波のときは、海から離れるのが原則です。

◎部会長

地域によって、逃げる方向が東や西などいろいろですね。

◎副部会長

鷺別小学校の横から鷺別岬まで、歩いて約 15 分で行けますね。

◎事務局

そういうことで、防災計画を定めてやっていますよということです。防災訓練は、市と一緒に各地域の町内会で行うようになりましたね。

◎副部長

来年の避難訓練は冬に行い、季節や天気をいろいろ想定しながらやってみようと考えています。

◎事務局

幌別鉄南地区では、以前、冬に避難訓練を行いました。ソリに物を乗せて運んでいました。避難にはやはり時間がかかりました。

◎副部長

最も心配なのは、高齢化が進んでいますから、要援護者のことですね。震災の教訓を踏まえると、まずは自分が先に逃げる必要があるのですが、そうすると要援護者まで手がなかなか回りません。

◎部長

以前、手上げ方式で支援してくれる人を募りましたね。

◎部会員

他のまちで15分ルールというのがありましたね。15分間は避難の支援活動をして、時間が過ぎたら自分が避難するというものです。そうは言っても、なかなか逃げるわけにもいきませんよね。

◎事務局

行政ではなく、地域の皆さんが自らルール設定したと聞いています。東日本大震災の被災地の話だったと思います。

◎副部長

有事のときに本当に機能するか心配がありますね。

◎部長

その人を助けられなかったら責任問題になりませんか。

◎部会員

町内会でも防災組織をつくったとはいえ、機能させるには死ぬ気でやらないといけません。自分を犠牲にして人を助けるというのは、相当な覚悟が必要です。

◎副部長

東日本大震災で、仙台空港近くの閑上地区で、そういうことで亡くなっている人がたくさんいますね。

◎部会員

15分ルールとまでいかななくても、それに近いものは何か考えないといけないですね。

◎市庁内検討委員会副部長

市の防災担当職員は、気象警報などが発表されたら速やかに登庁しなければなりません。家族が怪我をしていたら登庁することが難しくなります。皆さんも町内会での防災活動も、家族の安全を確保した上で自分が動けるのだと思います。災害によっては、必ずしも市役所に防災担当職員がいるとは限らない状況に陥ることも可能性としてはあります。

義務化すると、家族を見捨てて他人の救助に行かざるを得なくなることも考えられます。

◎部長

主要な施策『② 防災訓練の実施』は、こまめにやらないと効果が違いますよね。

◎事務局

地域に訓練をやりなさいと体系図には書けません。市は協力しますが、一番は地域の皆さんがやる気にならないと続きません。市で音頭をとって訓練の実施をと言われても、本当の災害で市は避難の音頭は取れません。

◎部長

連合町内会で、町内会別に避難の経路や時間を計っています。季節別と時間帯別に何回かやっています。

◎副部長

総合防災訓練では、重機が会場にきていますが、実際の大規模災害では、すぐに用意できないですね。

◎市庁内検討委員会副部長

総合防災訓練は、防災関係機関の活動をPRする場でもありますので、そこ

はご理解をお願いします。

主要な施策『② 防災訓練の実施』は、庁内の部会では、総合防災訓練もありますが、地域で取り組んでいる避難訓練なども踏まえた施策の考え方にすることを検討しています。

◎部会長

小規模でも皆さんやっていますから、全市的に日程を決めて実施する方法もありますね。初めは参加者が少ないかも知れませんが、少しずつ増えるのでは。

◎市庁内検討委員会副部会長

津波のときは、登別温泉地区の方は避難の心配がないなど、市内でも地域によって懸念される災害の種類は違います。そのあたりは統一的な条件の設定が必要です。

◎事務局

東日本大震災から年数が経ち、関心が薄れている方が増えていると思います。津波のことを強調する必要はありませんが、何かあってサイレンが鳴り、いざ逃げるときは、市と連携した日ごろの訓練が大事です。ほかに心配なのは、大雨と水害ですね。

◎部会長

本州の火山噴火の例もありますし、樽前山が噴火したら一番影響を受けそうですね。昭和 52 年の有珠山噴火のときは、突然、雷鳴とともに真っ暗になって火山灰が降り注いできました。

東日本大震災で津波がクローズアップされていますが、現実的には水害が多いですね。ダムが決壊は想定外と言っていますが、無きにしも非ずで、本当に起きたら大変なことになる。

◎副部会長

平成 24 年 11 月の大規模停電は、交通量の多い国道 36 号に車が合流することすら大変でした。

◎部会長

当時は、国道も道道も大渋滞でしたね。

◎副部長

このとき、警察は交通整理の警察官が足りなかったそうです。津波ではありませんが、二次災害が起きてしまいますよ。

◎部会員

学田通りは通行しやすかったですよ。国道や道道に合流するときは、大変だったんでしょうね。

◎副部長

大規模停電の避難のときは、遠い大きな会館ではなく、身近な公共施設だといいですね。

◎部長

栄町の人には、避難を希望する人は鷺別公民館に行くよう広報車が回っていましたが、もし津波でしたら、鷺別公民館まで遠くて間に合わないですね。

◎事務局

停電のときの対応と津波のような災害とでは対応は異なります。家にいてもストーブがあるのなら、家にいた方がいいわけで、何もなくて家にいたら死んでしまうという人には自主避難を呼び掛けました。津波のときは、家にいるのではなくて、すぐに逃げなさいということです。

◎部会員

東日本大震災のとき、市民会館の2階で貸館と催しをやっているからとか、中学校では卒業式の準備をしてあるから体育館を使わないでくださいなどという対応がありましたね。

◎部会員

被害もないのに何で警報を出したんだという人や、平成12年の有珠山噴火の避難者で、自分のところだけ救援物資が届いていないと言う人など、いろいろな人がいましたね。

◎部長

有珠山の噴火は20年から30年ごとにありますね。

◎事務局

もしまた噴火して、避難者が登別市に来ることがあれば、市や連合町内会で協力しながら受け入れしないとイケませんね。

◎副部長

『④ 防災思想の普及啓発強化』の考え方に記載のある『避難経路』の表示について、庁内の部会で何か話は出ませんでしたか。

◎部長

自分の町内会で言っているのは、海の方や海と並行にでもなく、山へ向かって逃げるとのことです。

◎事務局

今年、これから高台の方へ、何か所か目立つところに避難経路の表示を設置する予定です。

◎部長

高さの表示のところに、避難する方向を表示するような形でいいのではないかと思います。

◎副部長

遠方から来た方がどこに避難したらよいかという問題もあります。江差町では、まちのあちこちに避難経路を表示していました。

◎事務局

広尾町でも海沿いには避難経路が表示していました。看板の話でいつも出るので、「誰のために設置するんだ。市民なら看板がなくてもわかるだろう」と言われます。市内の国道36号全部にびっしり付けなければいけないのかなど、遠方の人のためなら、どこにどこまで設置を進めていくのかという課題があります。

◎副部長

東日本大震災のとき、鷺別漁港の方を漁師と一緒に見ていたら、漁師が浜小屋まで津波はこないと話していました。漁港から水が上がってきて、市道まではこないとのことで、実際もそのとおりでした。水が引いたときに、海水が渦を巻いて漁港に入ってきました。

◎部会員

室蘭市の白鳥湾は、自然の防波堤というか天然の良港ですね。釧路のように海水が上がってくるのを見て思いました。

◎事務局

登別市も、震源によっては津波の直撃を受けるかも知れません。東日本大震災のときは南の方向でしたから、大きな被害が無かっただけかも知れません。

◎副部長

釧路沖が震源だとしたら、被害が出ていたかも知れませんね。

◎市庁内検討委員会副部長

震源が浅い地震だと、津波の発生確率が高くなります。十勝沖を震源とする地震で津波が発生しても、襟裳岬が防波堤の役割を果たしてくれることがあります。

◎副部長

登別市では、耐震化はどのくらいまで進んでいるのですか。

◎事務局

小・中学校の耐震診断は本年度で全て涉猟します。今年度からは順次校舎の耐震化を進めます。鷲別小学校は耐震化が困難でしたので、建て替えを行います。

◎副部長

民間の大きな施設の耐震化に市が補助する予定はあるのですか。

◎事務局

検討はしています。国には耐震改修の補助メニューがあります。市は、耐震診断への補助制度を今年度設けています。ホテルや一定の面積以上の建物を対象にしています。次は、耐震改修の補助をどうするか市で考えています。

皆さんは、ハザードマップを自宅で分かる場所に置いていますか。自分の家に関係するところを読んで理解した後は、無くさないように、すぐ取り出せる場所にしまっておいていただければと思います。

◎部長

要は、津波のときはどの方向に逃げるか、後は声を掛け合って逃げるという

ことで、普段からの訓練が大切ですね。

◎事務局

市職員を呼んで、防災研修会をやってもらえるといいですね。

◎部会員

昔、水が出てきて、住民が怪我をしたような記憶があるのですが、その場所にハザードマップ上、何の色も付いていないのが気になります。若草町の高圧線の下あたりだったと思います。

◎事務局

山ですし、水が出てくることはあると思います。

◎部会員

津波のこともさることながら、その他の災害にも気を付けるよう、防災研修会でお話をお願いしています。避難ルートの確認と怪しい場所のチェックを兼ねて、避難研修会をやる予定で、市の防災担当職員にも協力をお願いしています。研修会には要支援者の方にも来ていただく予定です。

◎事務局

社会福祉協議会の小地域ネットワークはどうなっていますか。

◎副部長

特に続いていません。

◎部長

そういう組織があるというだけで、目的が違います。防災に特化したわけはありません。

◎副部長

社会福祉協議会が始めたとき、平成2年でしょうか、私の町内会でいち早く取り組みました。独居世帯やお年寄りだけの世帯などを地図に書き込んだり、見守りを行ったりなどです。町内会の役員で情報を共有しています。94町内会のうち32・33町内会くらいしか取り組んでいないようで、増えていないみたいです。

住宅用火災警報器を一括して購入したほか、安全キットも私の町内会で始め

ました。幸いなことに、安全キットを使うような病院搬送などの事例はありません。

◎事務局

驚別地区は最先端ですね。安全キットを使うようなことにならないのが一番ですが。

◎部会長

病院に行くとき、具合が悪くてもタクシーを使う人が多いですね。本当に具合が悪くてどうしようもないときは、迷わず救急車を呼ぶことが必要ですね。

◎副部会長

今年2月、妻が倒れて救急車を呼びましたら、症状を聞かれて、すぐに来てくれません。待っている時間も長く感じます。医師はあと15分遅かったら危なかったと話していました。

◎部会員

救急車は、事情を全部聞かないと出動してくれないのですか。

◎部会員

やはり聞かれますよ。どこの病院に搬送すべきか、軽傷の可能性はないのか、いろいろ判断するためですよね。

◎部会員

出動して走りながら聞いてほしいですね。

◎部会員

たまたま家族がいたから通報できますけど、一人だったらと思うと大変でした。

◎副部会長

防災センターは、市内にあるのですか。

◎事務局

今はありません。現在の第2期基本計画にも防災センターに関する記載がありますが、財政上の問題から実現していません。防災センターはあった方がいいと掲げていますが、第3期基本計画中也実現に向けて努力するため載せてい

ます。

◎部会長

防災センターは消防と直結するものですし、消防の中にあることが多いですよ。

◎事務局

いずれ消防庁舎を建て替えるときがくると思いますので、防災センターの機能をどうするかという議論をする必要があります。いつ建て替えになるのか分かりませんが。

市役所も老朽化していますし、過去の防災研修会では、大地震が起きたら市役所は倒壊し、市職員は市民の皆さんを助けることができませんと話しています。

◎部会員

市役所は築何年ですか。

◎事務局

市制施行前に建てたはずですので、50年近く経過します。

◎副部会長

市役所を建て替える経費はどれくらいの見込みですか。

◎事務局

30億円を超える金額にはなると思います。

◎副部会長

学校の建て替えも30億円程度かかっていますよね。

◎市庁内検討委員会副部会長

現在の庁舎と同じ場所に建てられるか分かりませんし、市役所の場所が動く、周辺の商店も動いて街並みが変わってしまいますから、大きな問題です。

◎副部会長

他の市町村役場を見ても、登別市役所の庁舎は恥ずかしくて、見せられません。

◎部会長

こんな庁舎はないですよ。どうぞいらしてくださいとは言えないです。少々借金しても建てるべきですよ。職員の士気にも影響するのでは。人口の将来動向を踏まえて建物の規模も考えないと、借金だけが残ってしまいます。

◎事務局

クリンクルセンターもお金がかかっていますが、何十年も維持できるわけではありません。借金返済は間もなく終わりますが、すぐにまた新たに建て替えるということにもなりません。

◎副部会長

市役所庁舎は何とかした方がいいですね。災害が起きたら、何も動かなくなります。登別大谷高校の跡地に庁舎を新しく立てるとしたら、中央町の人たちが反対するという話を聞いたことがあります。

◎市庁内検討委員会副部会長

平地に建てると、川が近いと浸水するかも知れませんし、海に近いと津波の被害を受けるかも知れません。

◎部会長

建てられる用地もないですよ。避難場所も兼ねて、消防も含めて一括して高台に耐震化された建物をつくらないと。

◎部会員

中心部から離れてしまうと不便になりますね。津波は何十年か何百年に1回でしょうけど、少し高い建物を建てて、上層階に避難できればいいと思います。まちが動いてしまうと大変です。

◎事務局

高齢化する時代に、いつ襲来するか分からない津波のために、高台に庁舎を建てるのか。普段は使いにくくなります。それがジレンマですね。現庁舎の場所に新しく建てても津波の被害を受けてしまいます。札内町に庁舎を建てても、行くのが大変ですよ。建て替えるべきという方もいれば、庁舎より税金を安く、他の公共施設の建て替えをとという人もいます。

◎部会員

町村に行くと、学校も庁舎も新しく立派ですよね。

◎事務局

総合防災対策の推進のところのお話しは、概ねよろしいでしょうか。次回は自主防災組織も関わる『防災体制の確立』から再開したいと思います。

次回は、10月14日（火）の18時から、この会場、登別市役所2階第一委員会室で開催します。